

東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 —いわき湯本温泉の活性化—（第 2 年次）

大嶋 淳俊¹、宮本 真一¹

A Study on Tourism Promotion Using PBL (Project Based Learning) Method in Restoration Assistance following the Great East Japan Earthquake — Second Annual Report on Challenges to Revitalize Iwaki Yumoto Onsen —

Atsutoshi Oshima, Shinichi Miyamoto

1. 背景・目的

本プロジェクトは、2017 年度に開始した『東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～いわき湯本温泉の活性化～』の第 2 次年度にあたる。

東日本大震災の影響は未だ大きく、また福島県では原発事故に起因する風評被害も相まって、同地域は長引く困難に直面している。福島県いわき市に位置し、奈良時代から続く日本三古泉の一つとも呼ばれる「いわき湯本温泉」は東日本大震災から 7 年経った今でも、観光客は震災前の 6 割程度にとどまっている。

このような状況を受けて、初年度に続いて本プロジェクトでは、「いわき湯本温泉」の復興支援・地域活性化に取り組むと共に、その過程で地域と連携しながら、学生達が地域の魅力や課題を理解し、課題解決の一助のために成果を創出することを目的としている。

具体的な取り組み内容としては、地元の関係団体や旅行会社の協力を得ながら「①東京の女子大学生の視点で同温泉地の魅力を再発見して首都圏の若者に訴求する旅行プラン等を考案、②それとシナジー効果を持つオリジナリティ溢れる観光プロモーションビデオ(PV)を制作、さらに、③それらの成果物をイベントや SNS で直接マーケティングする」という 3 本柱を掲げた。

¹ 昭和女子大学 現代ビジネス研究所 研究員

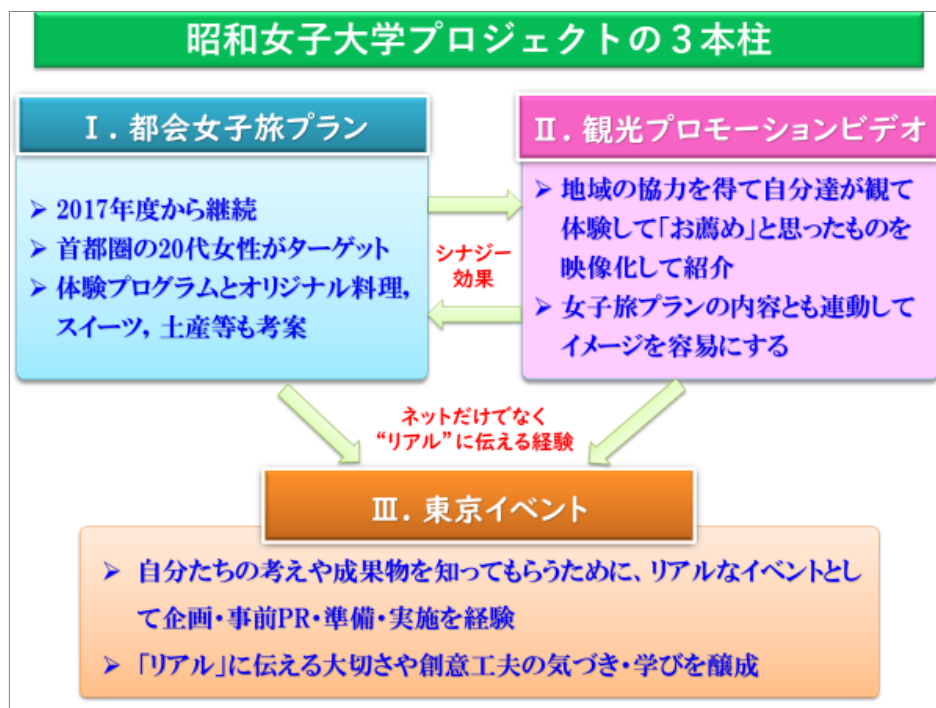


図 1 プロジェクトの3本柱

これらに挑戦することで、学生達が復興支援・地域活性化の意味を「自分ごと」として深く考え、視野を広げ、地域と連携したチーム作業を通じて自ら粘り強く取り組み、最後まで達成する実践力の向上を目指した。

2. 活動内容

2.1. プロジェクトの全体像

本事業は、次のように大別して3つのフェーズとテーマに取り組んだ。

表 1 フェーズ別の取組内容

3つのフェーズと中心テーマ	主な活動
【フェーズ I】 (2018年5月～9月) 「都会女子旅プラン」中心	◆ 知識付与 ◆ チームビルディング ◆ 旅行プランのブラッシュアップ ◆ 現地で発表・意見交換〔第1回訪問：9/9-10〕 ◆ 提案の再修正と提出

【フェーズ II】 (2018 年 7 月～12 月) 「観光プロモーションビデオ (PV) の制作・周知」中心	◆ 観光 PV のコンセプト、シナリオ作り ◆ 現地フィールドワーク〔第 1 回訪問：9/9-10〕 ◆ 観光 PV シナリオの見直し ◆ 現地での撮影〔第 2 回訪問：10/12-13〕 ◆ 観光 PV 試作版の検討、修正 ◆ 観光 PV の公開、周知活動
【フェーズ III】 (2018 年 11 月～2019 年 2 月) 「東京イベント」 中心	◆ 東京でのイベントコンセプトと開催場所の検討 ◆ イベント準備と当日の段取り、役割分担 ◆ 掲示物、配布物等の作成 ◆ 事前 PR 活動 ◆ 当日の運営、振り返り

※個別の活動については、本プロジェクトの S-Labo 参照。

(<https://slabo.swu.ac.jp/projects/2017-iwakiyumoto>)

定例会議は 12 回実施した。この他にも、学生メンバー達は昼休みや授業後に自主的に集まって何度もミーティングを実施した。

また、地元の大学生との交流は相互の刺激になると考え、フェーズⅡとⅢについては、いわき明星大学の太田淳俊ゼミの有志学生（4 年生 1 名、3 年生 1 名）も参加した。

2.2. 実施体制

(1) 現代ビジネス研究所研究員

太田 淳俊、宮本 真一

(2) アドバイザー

磯野 彰彦 昭和女子大学グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科教授（兼 キャリア支援センター長/キャリア支援部長）

(3) 学生メンバー（学年順）

小林 永実	生活科学部 健康デザイン学科	4 年	※リーダー
後藤 史帆	生活科学部 健康デザイン学科	3 年	
佐川 愛実	生活科学部 健康デザイン学科	3 年	
小池 愛祐美	人間文化学部 英語コミュニケーション学科	3 年	
鈴木 遥	人間社会学部 福祉社会学科	2 年	
亀井 絵梨香	人間文化学部 歴史文化学科	1 年	
吉田 裕香	人間社会学部 現代教養学科	1 年	
川目 恵理菜	生活科学部 環境デザイン学科	1 年	

上記 8 名の学生メンバーは、学年・学部学科とも多様だが、各自の得意分野や関心を活かして最後まで積極的に取り組んだ。

2.3. 協力組織・団体

プロジェクトの実施においては、行政から経済団体、いわき湯本の様々な組織の協力を頂いた。主な協力組織・団体は次の通りである。 ※一部の組織では略称を使用

【行政・経済団体】

- ・ 福島県庁
- ・ いわき市役所
- ・ いわき商工会議所
- ・ いわき観光まちづくりビューロー

【いわき湯本】

- ・ いわき湯本温泉旅館協同組合
- ・ 温泉神社
- ・ 金刀比羅神社
- ・ 勝行院
- ・ 旅館 こいと
- ・ 橋本酒店 community cafe & bar
- ・ とうふカフェ naraya
- ・ ワイワイショップ
- ・ 野口雨情記念館 湯本温泉 童謡館
- ・ フラダンス教室 モキハナ・フラ・オハナ
- ・ スパリゾートハワイアンズ ＜特別協力＞
- ・ いわき FC パーク ＜特別協力＞

【企業等】

- ・ リクルートライフスタイル（じゃらん）
- ・ アイフィールズ

3. プロジェクトの成果

3.1. 『都会女子旅プラン』の造成

学生メンバーがあらためてリサーチしたり観光ビジネスの専門家の助言を得たりしながら、第1次年度に提案した『旅行プラン：日常の中の特別（おんせん）』のブラッシュアップを行い、いわき湯本温泉関係者がより実践しやすい構成と内容の提案を作成した。

こうして作成した提案を、第1回訪問の9月9日午後に、いわき湯本のキーパーソン達の前で発表する意見交換会を実施した。また、これに先立ち、いわき湯本温泉旅館協同組合のご招待で昼食を兼ねた交流会も開催していただいた。

地元でチームを作って準備を進めていただき、まず、2019年2月から、昭和女子大生ブ

ロデュースとして「つるし雛作り体験」を試験的に実施した。また、「ハイビスカス豆乳サンデー」も新たに開発され、販売が始まっている。

2019 年度には、地元の努力で提案内容の実現がさらに進む予定である。



図 2 『都会女子旅プラン』意見交換会の様子



図 3 交流会の様子

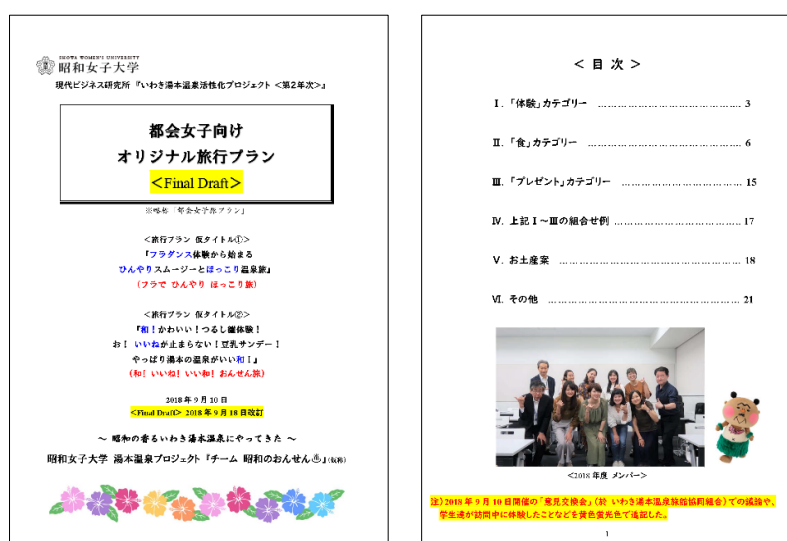


図 4 『都会女子旅プラン』最終提案（抜粋）



昭和女子大学 × いわき湯本
『都会女子旅プラン』



【Experience】 ① フラダンス体験 ② つるし雛体験



- > 「つるし雛」制作体験
- > 旅行後も家で飾れるので思い出に
- > 90分, 1000円, 童謡館
- > 3種類 (いちご・お花・三角など) から2つ制作
- > うち1つは童謡館で飾る←リピーターに!?

- > 「フラのまち」湯本温泉でフラダンス体験
- > 体験時間内に1曲踊れるように
- > 60分, 5人以上, 1000円
- > 特典: オリジナル台紙に写真 (料金込)



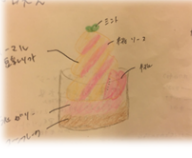
【Food & Sweets】「都会女子旅プラン」予約客限定商品!



サンシャイントマトを使った
トマトポトフ (旅館毎アレンジ)
例: アンコウ入り



オリジナルカップの
野菜スムージー
例: フラおじさん緑色の
部分がスムージーの色



インスタ映え「豆乳
サンデー」
例: ハワイアンズ版
いわきFC版

プレゼント、お土産のアイデアも! → 詳しくは冊子を参照

図 5 『都会女子旅プラン』のポイント

3.2. 観光プロモーションビデオ (PV) の制作・周知

全国各地の観光 PV を各自が調査した上でコンセプトを練り、シナリオ第 1 案を作成した。その上で、第 1 次訪問 (9 月 9~10 日) でロケハンを行い、映像に収録すべき内容や見せ方について検討を加えた上で、第 2 次訪問 (10 月 13~14 日) の 2 日間で集中的に撮影を行った。なお、映像の撮影・編集はプロに依頼し、学生メンバー達は、ユーザー目線で PV に盛り込む内容の考案や出演に特化して取り組んだ。

今回の主なターゲット顧客である「首都圏の 20 代女子、一泊二日」を実現するためには、いわき湯本温泉街に加えて、周辺の人気観光地であるテーマパーク「スパリゾートハワイアンズ」、サッカー場及び商業施設「いわき FC パーク」も映像にぜひ取り入れたいと考えた。各社と交渉した結果、趣旨に賛同いただき全面的な協力を得ることができた。

これまでも、いわき明星大学の地域連携型 PBL 授業 (担当: 大嶋淳俊 教授) において、いわき湯本温泉街を紹介する観光 PV やウェブサイトを複数制作してきたが、①いわき湯本温泉街、②スパリゾートハワイアンズ、③いわき FC パーク、という 3 エリアを総合的に紹介する観光コンテンツは今回が初めてであった。



図 6 3つのエリアの位置関係と特性

こうして完成したのが、観光 PV『フラっと女子旅 湯本へ GO！ ～フラってあなたも湯本女子♡～』である。「本編」(4 分間)に加えて、そのエッセンスを短時間で伝える「30 秒編」も制作した。さらに、海外向けに英語・中国語版もつくった。

映像の内容としては、学生メンバー達が「自分達がぜひ行って楽しみたい」「費用負担しなくてもやってみたい」「都会女子旅プランに入りたい」と考えた「フラダンス体験」や「つるし雛作り体験」を実際にやっている様子を撮影した。さらに、神社などの観光スポットをまわったり、おいしくて特徴ある料理やスイーツを食べたり、足湯に入ったり、温泉旅館に泊まって楽しんだりする様子も収録した。

「“女子旅”なので 3~4 人が自然」という考えから「女子 4 人旅」という条件設定にしたが、学生メンバー全員が随所に登場するように演出を行った。さらに、いわき明星大学の大嶋ゼミ学生達も共演した。本人達が本当にお薦めと感じ、実際に楽しんでいる様子を撮影できたので、率直な楽しさと臨場感が溢れる映像作品に仕上がった。撮影の最後には、各自が映像制作にかけてきた想いや感想も収録して振り返りを図った(公式ウェブサイトに収録)。



図 7 PV 撮影の様子

撮影内容は十数カ所に及びかなり多かったが、ネット動画の配信で望ましい長さの 3～4 分間以内にまとめる必要があった。撮影内容毎に 6 つのカテゴリー（「観」「温」「作」「泊」「食」「踊」）に分類し、映像の右下にカテゴリーを表示して視覚的にわかりやすくした。



図 8 観光 PV のイメージ

【本編】 <https://youtu.be/9-D8qzdqhYw>

【30 秒版】 <https://youtu.be/Yl1KS3tUyH4>

3.3. 東京イベントの開催

観光 PV や都会女子旅プランなどを作った成果や体験を主なターゲット顧客である東京の人々に直接伝える機会をつくるため、次の要領でイベントを開催した。

- 日時：2019 年 2 月 19 日（火）14:00～18:00
- 場所：福島県アンテナショップ「日本橋ふくしま館（MIDETTE）」
- 協力組織：いわき湯本温泉旅館協同組合、いわき市役所、いわき商工会議所、福島県庁、日本橋ふくしま館 MIDETTE、スパリゾートハワイアンズ、いわき FC パーク、じゃらん 等
- 主な内容：
 - ① 簡単！可愛い！苺のつるし雛 制作体験♡
 - ② 観光プロモーションビデオ（PV）を見て、クイズに答えて豪華景品を Get！
 - ③ 学生のミニアルバム展示、いわき湯本パネルアンケート、都会女子旅プラン 等

イベントの事前 PR は、上記の協力組織に加えて、昭和女子大学広報部及び現代ビジネス

研究所、口コミ等を駆使して精力的に展開した。下記のようなイベント用のチラシも作成して、日本橋ふくしま館 MIDETTE や昭和女子大学の構内などでも配布した。



図 9 イベント用のチラシ 2 種

イベント当日は、寒い上に途中から雨が降るなど集客的には容易ではない環境だったが、屋外で観光 PV 紹介情報を入れたオリジナルポケットティッシュを 200 個以上配ったり、多数のチラシを配ったりしながら会場に誘導した。

主な活動としては、観光 PV で紹介している「苺のつるし雛作り体験」を学生がインストラクターとして実施した。また、観光 PV を注意深く見て、いわき湯本の魅力のポイントを掴んでもらうために学生がクイズを作成し、それに答えてもらえれば景品を提供することにした。景品は、全て協力組織から無償提供された 500 以上のアイテムを複数組み合わせせて用意した。

また、「いわき湯本魅力度調査」と題して、観光 PV にも出ている観光スポット 4 つの写真をボードに貼り、歩行者や来場者に関心を持ったスポットにシールをつけてもらうようにした。このプロセスでプロジェクトの趣旨を説明して、「観光 PV クイズ」や「つるし雛作り体験」にも誘導を図った。

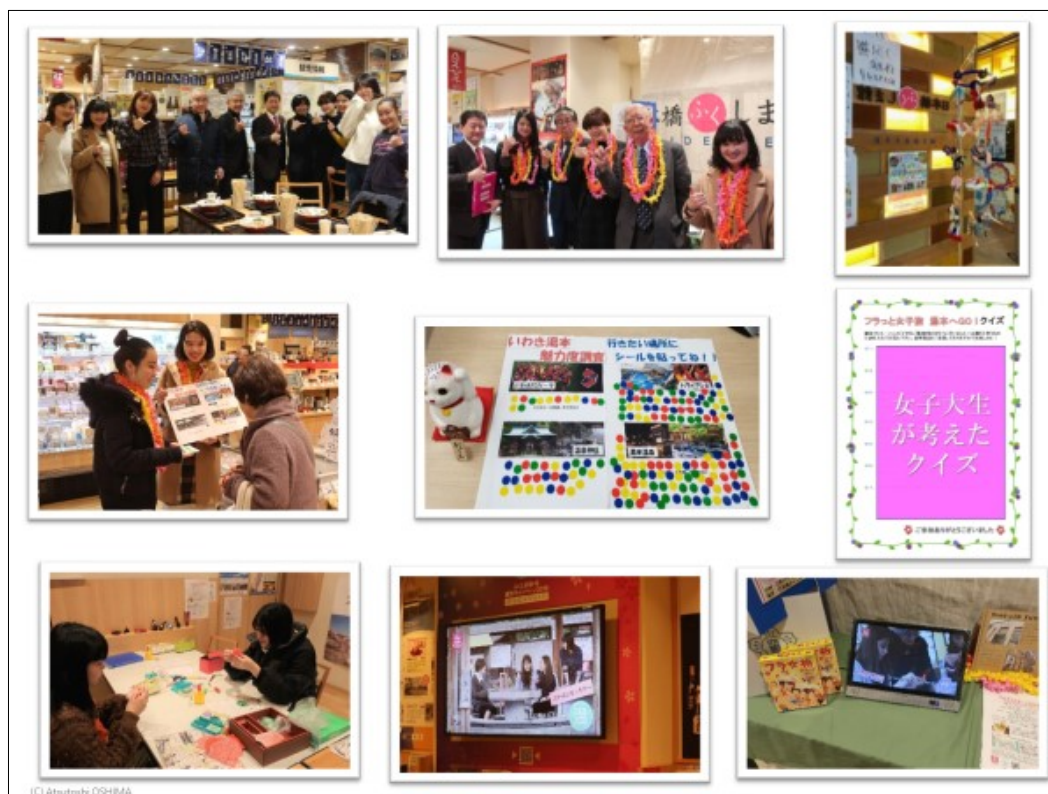


図 10 イベント当日の様子

当日は、いわき湯本温泉旅館協同組合、福島県庁、いわき市役所、スパリゾートハワイアンズの関係者も応援に駆けつけて頂いた。また、いわき明星大学の大嶋ゼミのメンバーも一緒に活動を行った。

3.4. 公式ウェブサイトの活用

本プロジェクトの3本の柱である「都会女子旅プラン」「観光PV」「東京イベント」を連携させて対外的なPRを行う手段として、公式ウェブサイト『フラってあなたも湯本女子！』を開設した。メディアや一般の方などにプロジェクトの内容をわかりやすく紹介するのに非常に役立っている。



図 11 公式ウェブサイト『フラってあなたも湯本女子!』

3.5. メディア等を通じた広報実績と実践活用

(1) メディアでの広報

本プロジェクトが福島県・いわき市の内外で広く認知されるように、メディア等を通じて広報活動に力を入れた。

福島県・いわき市の行政機関や経済団体は、プロジェクト活動の事前 PR や成果を、公式ウェブサイトや公式 Facebook 等の SNS で積極的に掲載して頂いた。これにより、プロジェクトの周知のみならず、いわき湯本温泉のアピールに大いに貢献できた。

昭和女子大学は、公式ウェブサイトのトップページや公式 SNS に観光 PV の紹介やイベントの告知について掲載して頂いた。さらに、完成した PV を学内の複数のディスプレイで継続的に放映し、他の学生達にも広く知られるようにして頂いた。

【行政・経済団体・大学】

- ・ 福島県庁
- ・ いわき市役所
- ・ いわき商工会議所

- ・ いわき観光まちづくりビューロー 等
- ・ 昭和女子大学

次のようなメディアでも複数回取り上げられ、いわき湯本温泉及びプロジェクト活動について広く知られるようになった。

【新聞】

- ・ 福島民報社
- ・ 福島民友社
- ・ 毎日新聞社 等



図 12 メディアの掲載例（例 1）



図 13 メディアの掲載例 (例 2)

【ラジオ】

ラジオ福島の人気情報番組『朝ゼミ F (エフ) ～ビジネスマン学習塾～』(毎週月曜日)の中で、大嶋が出演する担当月に、本プロジェクトの活動紹介を複数回実施した。

- 放送局：ラジオ福島 (いわき：1431KHz／福島：1458KHz／郡山：1098KHz／会津若松：1395KHz)
- 出演者：大嶋淳俊 いわき明星大学 教養学部 教授／小川栄一 アナウンサー

【学内メディア「S-Labo」】

学内メディアである S-Labo を通じて、定期的な会議の状況報告から、第 1 次・第 2 次訪問などで学生達が学び・気づいたことについて積極的に広報活動を行った。第 2 次訪問の後には、全ての学生が担当内容を決めて執筆した。

活動の進捗状況を広く知ってもらうのに大いに役だった。

(2) 成果物を活用した地元による PR 活動

プロジェクトの重要な目的の一つは、いわき湯本温泉の IT を活用した観光マーケティング支援である。観光 PV は、実際に地元で活用されている。

例えば、いわき湯本温泉旅館協同組合の公式ウェブサイトでは、本プロジェクトで制作した観光 PV がトップページで紹介され、魅力を伝える一助となっている。

観光 PV は、海外でも紹介されている。2018 年 12 月に台北で開催された大規模な観光イベント「日本東北六縣感謝祭」において、福島県・いわき湯本温泉関係者が観光 PV を活用していわき湯本の PR を積極的に展開した。同イベントに間に合わせるために、観光 PV の英語版に加えて中国語版も急遽制作した。また、PV を容易に参照できるように QR コード入りのチラシも作成して提供した。このように、台北でもいわき湯本温泉の魅力を伝えるのに大いに役立った。



図 14 観光 PV の実践利用例（台北）

4. 総括

本稿では、「東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～ いわき湯本温泉の活性化（第 2 年次）～」プロジェクトの活動概要を紹介した。

参加学生達は、事前リサーチや旅行プラン造成のためのレクチャーを受けた後、様々な関係者の協力を得ながら 2 回の現地訪問を行った。そして、「都会女子旅プランの考案」、「観

光プロモーションビデオの制作・周知」に取り組んだ。次に、その成果をリアルに伝える場として「東京イベント」を開催した。また、公式ウェブサイトにより、成果を広く継続的に伝えていくことができるようにした。

学生メンバー達は、福島県・いわき湯本関係者はもちろん、行政からメディアや企業、地元のいわき明星大学の大嶋ゼミの学生達とも連携を図った。

このような活動を通じて、学生達は東北復興支援についての現状や課題、地域の魅力発見と情報発信の実践、地域活性化の実践に自らを省みながらチームワークやリーダーシップが大切なことについて、深く考え・学ぶ機会を得ることができたと考える。

本プロジェクトは当初の予定通り、2017 年度～2018 年度の 2 カ年で完了となる。これらの成果は、「地域連携型 PBL 教育」や「IT 活用型の観光マーケティング」などの観点から、いずれ学術的にもまとめる必要があると考えている。

復興支援・地域活性化に終わりは無い。今後も、本プロジェクトで培った知見・経験・ネットワークを基に、東北復興の活動の深化と拡大を継続していきたい。

【参考文献】

大嶋淳俊（2018）「東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～いわき湯本温泉の活性化～」『昭和女子大学 現代ビジネス研究所紀要（2017 年度）』ISSN 2432-1621.

【謝辞】

最初に、多大なるご協力を頂いた、いわき湯本温泉、いわき市、福島県など関係者の皆様に深く御礼申し上げます。本文中に組織名を掲載した以外にも、多くの組織・方々のご支援を頂くことができました。正規授業ではないボランティアでの「地域連携型 PBL プロジェクト」として、理想的な地域とのネットワーク構築ができたと思っています。

地元の関係者の暖かいご配慮と熱い励ましは、学生メンバー達のやる気に火をつけ、最後まで大きな後押しとなりました。だからこそ、「目に見えて、これからも地元に残る成果」を生み出すことができると共に、学生個々人の成長に大きくつながったのだと確信しています。

このような機会を頂いた昭和女子大学現代ビジネス研究所、さらに広報面で積極的にもご支援下さった昭和女子大学広報部の皆様にも感謝しております。また、第 1 次年度からアドバイザーを引き受けてくださった磯野彰彦教授には、今年度も定例会議への出席、全ての訪問調査の同行、イベント実施に至るまでご協力いただき、本当にありがとうございました。

最後に、本プロジェクトの主役の学生メンバー達へ。皆さんの復興支援への熱意と明るさ、地域と仲間を思いやる優しさ、個性溢れる発想、そして、回を重ねる毎に高まっていったチームワークがとても印象的でした。このプロジェクトの経験を一つの糧にして、ぜひこれからも自らの「個性」と「強み」に磨きをかけ、活躍を続けて欲しいと心より願っています。



《 2018 年 10 月 14 日 観光 PV 撮影完了時にアロハポーズで記念撮影 》